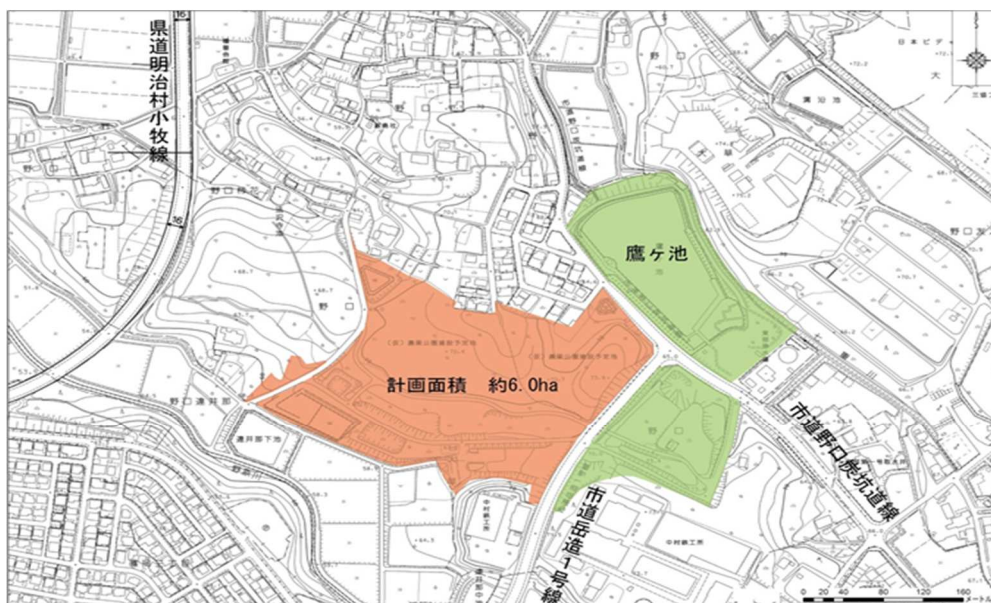




(仮称) 小牧市農業公園に関する追加説明

①経緯

- ・農業公園の整備については、平成元年度に集客を目的とした所謂テーマパーク型の基本構想を策定しましたが、事業用地の取得は進めたものの、建設に多額の費用を要すること、集客などが見込めないことなどにより、一時、計画を凍結しました。
- ・平成 27 年度には、既に取得した事業用地の活用及び計画の見直しを再検討するための(仮称)小牧市農業公園検討委員会を設置し、計 8 回の検討委員会を開催し、平成 30 年 3 月には修正した基本構想(案)のパブリックコメントを実施しました。
- ・その内容は、事業規模について、当初の約 11 ha から約 6 ha に縮小、事業費も大幅に削減し、市民の農業に対する理解を深め、農業にふれあえる機会の充実を図ることを目的とした、学習・体験など農業振興発信の場となるべき公園整備としたものであり、令和 2 年度に基本設計を行ったものであります。



凡例

記号	区分
	現在の計画区域
	当初計画地に 含まれていた区域

②公園整備に対する考え方について

・令和2年3月に策定した「小牧市まちづくり推進計画 第1次基本計画」の分野別計画編「産業・交流」の「農業」では、「農業にふれあえる機会を充実します」と掲げ、目標を「身近な農産物の栽培に親しみを感じ、さらに地元農産物にふれあえる場の充実を図ります。」としております。その手段の一つとして「食育と環境」をテーマとする農業公園の整備を進めます。」として示しております。

・農業公園開園後は、より多くの市民に地元農産物にふれていただけるよう収穫体験や自ら耕作していただく市民菜園での農作業を通じ、農にふれあっていただける場をより多く提供し、農業振興発信の場となる工夫していくことが重要であると考えております。また、市民の方々の交流の場となるような公園整備を考えております。

③利用予想及び管理手法について

・公園の利用者については、東部地域の住民をはじめとし、「農業に関心のある方」や「教育行事で訪れる小中学生、保育園・幼稚園児」など、幅広い年代層の多くの市民の利用を想定しています。

・整備した公園の運営や管理方法については、先進事例も参考にしながら、地元の農協と協力・連携し、関係者と共に検討しているところですが、利用者の方々の交流の場となるような様々な工夫が必要であると考えています。



【体験・交流のイメージ図】

(仮称)農業公園の経過について

平成22年9月作成(平成23年2月修正・令和3年5月修正)

(仮称)農業公園の位置 小牧市大字野口・大草地内(約11ha)

時期	事柄	施工・委託業者	
①	H元年	基本構想策定	
	H2~H4.3	マスタープラン・基本設計(1回目)	㈱創建
	H2~	用地買収開始(H15.3買収完了)	
	H4~	実施設計(1回目)(造成設計のみ)	
	H5~H10	市費にて造成工事(擁壁・調整池)	
	H5.1.18	愛知県土地対策会議幹事会(同1月27日承認)	
	H5.6	農振除外の申請(利用計画変更届)	
	H5.12	農用地除外承認	
②	H10	基本計画の見直しを実施(2回目)	玉野総合コンサル(株)
	H19	基本構想を新たに策定(3回目)	(有)モクモク流農村産業研究所
	H20	基本計画を新たに策定(3回目)	(有)モクモク流農村産業研究所
	H21・H22	基本設計を新たに策定(3回目)	㈱モクモク流農村産業研究所
③	H25.3.5	平成25年小牧市議会第1回定例会にて事業凍結を表明	
	H27.8.4	産業建設委員会にて全体区域を約11haから約6haに縮小を表明	
	H28.3~H30.4	(仮称)小牧市農業公園検討委員会(8回開催)	
	H28.3.24	(第1回)(1)(仮称)小牧市農業公園整備事業の経過について(2)小牧市農業公園に関する意見等について(基本構想のバブコム)(3)今後のスケジュールについて	
	H28.5.26	(第2回)(1)(仮称)農業公園予定地視察(2)(仮称)農業公園の構想について(3)他市の状況について	
	H28.8.30	(第3回)・先進事例視察(あおいパーク(碧南市)及びdelaふぁーむ(名古屋市))	
	H29.2.9	(第4回)(1)(仮称)小牧市農業公園の考え方(案)について(2)今後のスケジュールについて	
	H29.5.29	(第5回)(1)(仮称)小牧市農業公園基本構想修正案について	
	H29.8.28	(第6回)(1)(仮称)小牧市農業公園基本構想修正案について	
	H29.12.22	(第7回)(1)(仮称)小牧市農業公園基本構想修正案について	
	H30.4.24	(第8回)(1)(仮称)小牧市農業公園基本構想修正案に係るパブリックコメントで提出された意見と市の考え方について	
H30.6	基本構想(修正)	玉野総合コンサルタン(株)	
H30.6.28	議会説明(全員協議会にて報告)		
H30.6.28	地元区(野口区)へ基本構想説明→特に意見なし		
R3.3	基本設計策定(4回目)	玉野総合コンサルタン(株)	

(仮称)小牧市農業公園検討委員会メンバー

- 食育について専門知識を有する者
- こどもたちの育成について専門知識を有する者
- 市民活動について専門知識を有する者
- 環境活動について専門知識を有する者
- 小牧市区長会連合会長が指名した者
- 小牧市農業委員会会長が指名した者
- 尾張中央農業協同組合の組合長が指定した者
- 公募による者 2名
- 小牧市地域活性化営業部長

(仮称)農業公園基本計画等の推移

マスタープラン・基本設計(1回目)

施設等	テーマ(基本方針)	運営管理	概算工事費	入場者予測	駐車確保台数
研修センター・農業資料館・温室(鉄筋コンクリート造(基礎)及び鉄骨造)、農産物直売所、イベント広場、芝生広場、市民農園、学習園、果樹見本園、家畜展示園、駐車場。他に年間講座(桃の剪定講座等)を計画。	「自然と土と農とのふれあい」	直営(市営)を基本に、周辺農家、市民農園利用者にも日常管理に参加し、地域ぐるみで運営する。	39億円	9万8百人/年間(1,700人/1日)	104台(普通車100台・貸し切りバス4台)

基本計画(2回目)

施設及び見直し等	テーマ(基本方針)	運営管理	概算工事費	入場者予測	駐車確保台数
鷹ヶ池(既に整備済みのため)を除き見直しを実施。鷹ヶ池との連携は検討。市民のアンケート結果や市長の意見を取り入れて、前回のテーマ「自然と土と農とのふれあい」に「にぎわい」を持たせる公園に方針を変更した。①建物の配置(集約配置(3棟)から分散配置(4棟))と建物コスト(木造建築等にする)の検討。②植栽の検討(小牧にあった花や梅林・果樹の植栽・既存のカシの木を残す。)③運営管理(第3セクター・委託・直営)の検討。④市民参加(植栽を市民が行う、子どもに体験させる、高齢者による樹木の管理、小動物のふれあい、体験教室(手作り・陶芸)、飲食は軽食程度にする、物販は地方業者とのタイアップを行う。	「ふれあいとにぎわいの場(都市住民の庭)」	第3セクター・委託・直営を検討	21億8,700万円	29万7千人/年間(4,950人/1日最大)	196台(普通車184台・障害者用8台・大型バス4台)、その他は臨時駐車場(102台)で対応。

基本構想から基本設計(3回目)

施設及び見直し等	テーマ(基本方針)	運営管理	概算工事費	入場者予測	駐車確保台数
鷹ヶ池も含めて見直しを実施。食育、環境というテーマで様々な農業体験を行う施設。建物はビジター棟や体験等、レストラン、温室等で7棟。野菜ガーデンや家畜のふれあい広場、多目的広場、駐車場がある。運営管理は指定管理者が行う。農業体験では、さまざまなプログラムがある。	テーマ「食育と環境」を実践する「農業・体験・モノづくり・地域交流」(農業から食の楽しさを伝える「都市型食農学習施設」)	指定管理者	32億7,500万円	40万人/年間(4,380人/1日最大)	282台(普通車(障害者含む)272台・大型バス10台)、その他は臨時駐車場で対応。

基本構想(修正)から基本設計(4回目)

施設及び見直し等	テーマ(基本方針)	運営管理	概算工事費	入場者予測	駐車確保台数
事業費の削減に向けた取り組みと農業振興に向けた土地利用の2つの観点から全体計画を見直し。	テーマ「食育と環境 ~農と里山の恵み・ふれあい~」基本方針(キーワード)「体験」「交流」「育成」	指定管理者	5億4,452万円	実施プログラムにより検討中	76台(普通車73台・障がい者3台)、その他は臨時駐車場で対応。

(仮称) 小牧市農業公園整備基本構想 (修正) (概要版)

(仮称) 小牧市農業公園については、建設費に多額の費用を要すること、集客などが見込めないことなどにより、一時、計画を凍結する判断をし、平成 25 年小牧市議会第 1 回定例会において報告をしております。

それ以後、整備計画の白紙見直しとともに事業内容の精査、事業用地の利活用などについて様々な意見を踏まえ、検討を進めてまいりました。

農業公園の事業検討における課題として、事業費の縮減に向けた取り組みと、農業振興に向けた土地活用という 2 つの観点から、事業全体を見直したものです。

平成 27 年度に事業用地の活用及び計画の見直しを再検討するために、(仮称) 小牧市農業公園検討委員会を設置しました。

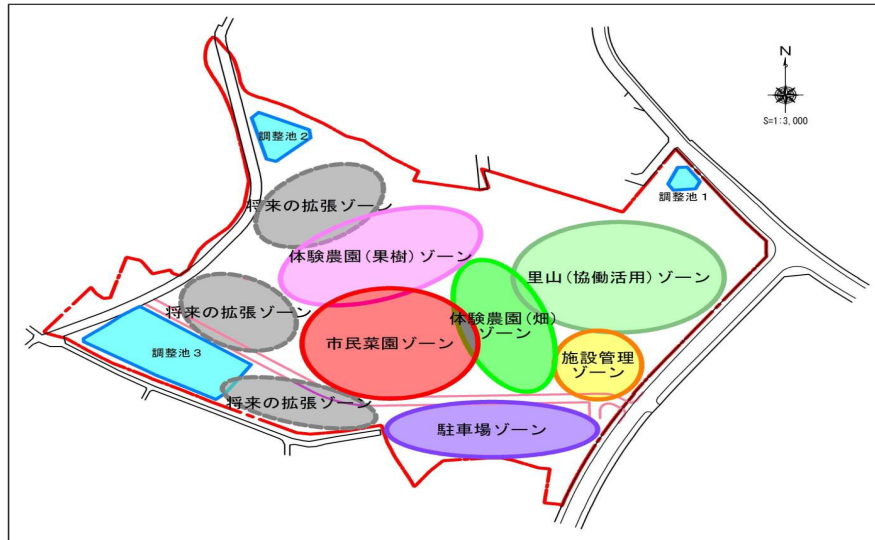
本「基本構想の修正」は、これまでの流れを汲み、また検討委員会において、現地や県内他市の農業関連施設の視察を実施した折の委員意見や市民アンケートの結果を受け、農業への関心や営農意欲を育む農業関連施設の必要性を考慮した結果、事業用地の利活用について、従前からの基本理念である「食育と環境」を念頭に土地利用や管理運営などの基本構想の再構築を進め、策定したものです。

《事業コンセプト》	
(1) 基本理念 (テーマ) 「食育と環境 ～農と里山の恵み・ふれあい～」	
対象	子どもや高齢者の方々を含めた全ての世代の市民
目標	次の 2 面の方向から、農業振興の発信の場を目指す。 (食育の面から) 身近な農業を通じた食の大切さを理解する場。 (環境の面から) 里山を活かし自然環境とのふれあいの場。
(2) 基本方針 (キーワード) 「体験」、「交流」、「育成」	
体験	一定期間畑を貸し出し農作業を営む「市民農園」や収穫する楽しさを体験する「収穫体験農園」ができる場の提供。
交流	市民や生産者が、農業を通じてふれあい、生きがいを感じる場の提供。
育成	地域に根付いた担い手が育成・確保されるよう、農業・農作業の知識等を提供できる場 (教室) の提供。

○土地利用の考え方

農業公園全体を、農作業を通して身近な農業に触れることができる「市民菜園ゾーン」、農業と食べ物をつなぐを農業体験等を通して伝える場となる「体験農園 (畑) ゾーン」及び「体験農園 (果樹) ゾーン」、里山の散策をしながら自然環境とふれあう場である「里山 (協働活用) ゾーン」、そして管理棟や農作業具置場などを設置する「施設管理ゾーン」の、5 つのゾーンに区分し、その他の部分は、「駐車場ゾーン」や、利用に応じて将来的に拡張することを考える「将来の拡張ゾーン」とします。

(ゾーニング図)



(市民菜園ゾーン)



(体験農園(果樹)ゾーン)



(体験農園(畑)ゾーン)



(里山(協働活用)ゾーン)



○概算事業費 425,000 千円

(内訳) 造成開発区域の整備費(将来の拡張ゾーンを含む。)約 6ha 305,000 千円

建築物等(管理棟他一式) 120,000 千円

※概算事業費については、他の施設の事例を参考に算出したものです。

○今後のスケジュール(予定) 2022年10月供用開始(一部)

2018年度~2022年度 基本計画、地質調査、基本設計、実施設計、造成工事
管理運営体制の検討等